

TOPICS

[Vol.34]

もの忘れ外来

脳神経センター 桂野顯彦・前田憲吾・尾関祐二

最近、マスコミなどでも「認知症」ということばをよく耳にするようになり、この病気への関心が高まっています。これまで治療法がなかったアルツハイマー型老年認知症についても、治療薬が使えるようになり、早期に正しい診断を行うことが、患者さまの利益に

つながる可能性が出てきました。

滋賀医科大学医学部附属病院では、早期に正しい診断を行い、個々の患者さまに合った治療や介護の情報を提供することを目的に、新たに臨床心理士1名を配置して「もの忘れ外来」を開設しました。



脳の障害で起こるもの忘れ「認知症」

歳をとるとだれでも「もの忘れ」が多くなりますが、「もの忘れ」イコール

「認知症(痴呆)」というわけではありません。認知症は脳の障害によって起こる病気で、単なるもの忘れとは異なります。一口に「もの忘れ」といっても年齢相応の記憶力低下もあり、服用している薬の影響やうつ病などの他の病気によって認知症とまぎらわしい状態になることもあります。

見が重要だといわれています。認知症の進行をできるだけ抑える薬を服用したり、今後の症状の進行に応じた対応を行うことで、その後の認知機能の低下をゆるやかにすることができます。

当院の「もの忘れ外来」では、画像検査や神経心理学検査などを組み合わせて総合的に判断することで、認知症の原因や障害の程度を適切に診断して、早期の治療につなげます。

最近注目されているのが、軽度認知障害(MCI)といって、「明らかな認知症ではないがもの忘れが出てきている」という初期の段階の認知症で、早期発

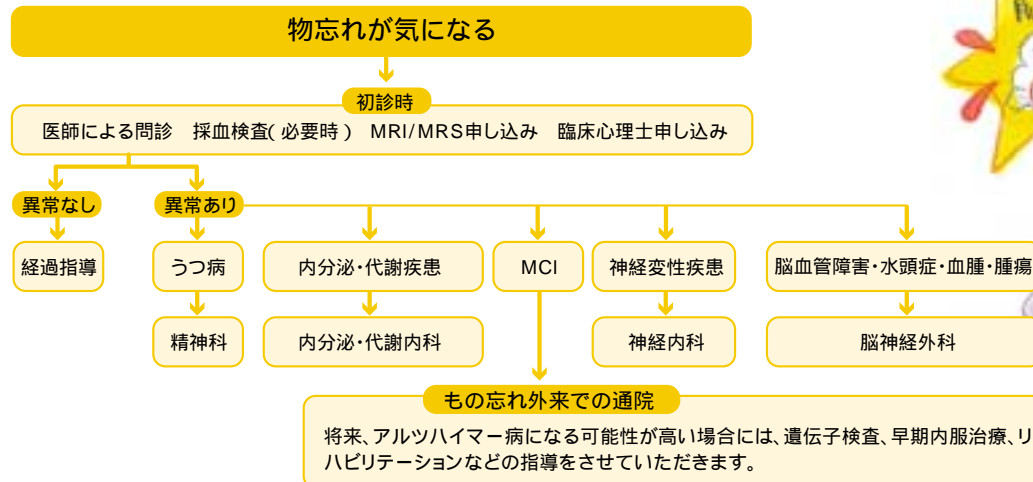
認知症の原因となる病気

脳に障害を起こして認知症の原因となる病気はたくさんあって、中には「正常圧水頭症」や「慢性硬膜下血腫」「代謝異常・内分泌異常」などのように適

切な治療で症状が改善するものもありますが、多くは「アルツハイマー病」と「脳血管障害」によるものです。

るかどうかの判断は難しく、症状が進んでからようやく診断されるといったことが普通です。

アルツハイマー病の初期段階であ



もの忘れ外来では、まず問診と病歴のチェック、簡易認知機能テスト(MMSE)、臨床痴呆評価尺度(CDR)、うつ病自己評価尺度(SDS)を行って、認知障害の有無や程度をチェックします。必要に応じて甲状腺機能評価や高脂血症などの基礎疾患の有無をチェックします。

MRI(核磁気共鳴画像診断装置)、MRS(磁気共鳴スペクトロスコピー)、

加齢による標準的な脳の萎縮パターンと患者さまの画像を比較・分析するVBM-MRIといった画像診断装置を用いて、脳の萎縮や神経細胞の脱落の度合いなどを診断します。

心理学的検査では、臨床心理士がウェクスラー成人知能検査(WEIS-R)のほか、うつ状態を評価するテスト(ハミルトンうつ病評価尺度、SDS)や、ことばの流暢さを評価する検査(VFT)、

trail making test(注意機能検査)を実施して、認知障害の程度について詳しく調べます。

また、希望があれば遺伝子検査を行うこともあります。



「高度先進性」が本院の特徴です。

1.VBMを用いた脳萎縮部位の判定

年を取ると皮膚のしわが増えるように、脳の萎縮も出てきますが、これ



が正常範囲なのか病的なのかを判断する必要があります。例えばアルツハイマー病になる危険性のある患者さまでは、側頭葉内側や後部帯状回の萎縮が出てきます。ごく初期の場合、通常のMRIでは判断が難しく、診断医の先入観や主観が入り込む可能性があります。VBMではコンピュータにより統計学的に脳の萎縮部位を検出しますので、客観的な脳の3次元構造の評価が可能です。

2.MRSによる神経細胞マーカーの測定

海馬の神経細胞マーカーの低下は、萎縮が始まる前に生じていると考えられます。ごく初期の症状の場合は、MRSで神経細胞の脱落の度合いを測ります。この検査は、血管性痴呆の特徴である大脳白質繊維の神経細胞マーカーの測定にも有効です。

3.遺伝子検査

アポリポ蛋白の遺伝子で特殊な組み合わせを持つ人は、アルツハイマー病になりやすいと言われています。MCIと診断された場合、希望があれば遺伝子検査をさせていただきます。

気になったらもの忘れ外来へ

最後に検査結果に基づいて詳しい説明と今後の治療や介護についてのアドバイスなどを行い、アルツハイマー型認知症の場合は地域の専門医への紹介、軽度認知障害の場合には薬による治療をスタートします。

ご自身やあるいはご家族のもの忘れが気になった時は、お気軽に当院のもの忘れ外来を受診してください。早期に診断することで、ご家族や患者さ

ま自身が将来に備えて計画を立てることが出来ます。

患者さまの日常生活を知るためにはご家族からの聞き取りが大切になることから、受診の際はできるだけご家族の方が付き添って来院されることをお勧めします。もし、ご家族が来られない場合はアンケートを郵送して答えていただくようにしています。



脳神経センター [電話 077-548-2588] *予約のうえご来院ください。

滋賀医科大学医学部附属病院 理念

「信頼と満足を追求する全人的医療」

理念を実現するための基本方針

患者さま本位の医療を実践します
信頼・安心・満足を与える病院を目指します
あたたかい心で最先端の医療を提供します
地域に密着した大学病院を目指します
世界に通用する医療人を育成します
健全な病院経営を目指します

滋賀医大病院ニュース第7号別冊 編集・発行: 滋賀医科大学広報委員会
〒520-2192 大津市瀬田月輪町
TEL: 077(548)2012(企画調整室)
過去のTOPICS(PDF版)はホームページでご覧いただけます。